

実務経験のある教員等による授業科目 の授業計画書(シラバス)【再掲】

別添2の再掲として基準数相当分のみ掲載

理学療法学科昼間部 : 9 単位分+ α

作業療法学科昼間部 : 9 単位分+ α

科目区分：理学療法治療学

科 目 名	物理療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内 智恵	実務 経歴	医療施設において 20 年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担 当 教 員	山内 智恵		
概 要	各物理療法について基礎的な知識を身につけ、臨床場面での適応・禁忌を判断できるようになる。併せて、将来の理学療法士にふさわしい視点と態度を身に付ける。また、後期の物理療法学演習に円滑に移行できるよう学習する。		
一般目標（GIO）	① 各種物理療法の原理・作用を習得する。（E-5-2） ② 各種物理療法の適応・禁忌を判断できるようになる。（E-5-2） ③ 物理療法適応時の対象者への配慮を考えることができる。（E-5-2）		

教科書	crosslink理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	生理学・解剖学の復習を随時行い、講義に参加すること。

実施回	授業内容(到達・行動目標)	担当教員
1	物理療法学総論:各種物理療法の原理・効果を説明できる	山内
2	温熱療法①ホットパック・パラフィン浴:特性を理解し、説明する事ができる	山内
3	温熱療法②極超短波・超短波:特性を理解し、説明する事ができる	山内
4	光線療法:赤外線療法・紫外線・低反応レーザー:特性を理解し、説明する事ができる	山内
5	超音波療法:性能や治療効果について理解し、説明する事ができる	山内
6	寒冷療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内
7	水治療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内
8	牽引療法:生体に与える影響や目的について理解し、説明する事ができる	山内
9	電気刺激療法①総論①電気刺激療法の特性について理解し、説明する事ができる	山内
10	電気刺激療法②総論②電気刺激療法の生理学的作用について説明する事ができる	山内
11	電気刺激療法③各論TENS・NMES:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
12	電気刺激療法④各論IFC・PNS:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
13	電気刺激療法⑤各論MES・FES:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
14	筋電図バイオフィードバック療法:作用機序について理解し、説明する事ができる	山内
15	振動刺激療法・体外衝撃波療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格:総授業時間数の2/3以上の出席
	平常評価		評価要領:定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門科目

科 目 名	筋骨格系障害理学療法学	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成 15 年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担 当 教 員	本間 伸晴 鈴木 由紀子		
概 要	筋骨関節疾患は臨床において多い。その為、筋骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ事が臨床での治療・リハビリテーションに結びつける事が出来る。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	筋骨格障害系理学療法学の対象疾患について理解を深め、実践に役立つ治療展開の方法とリスク管理、治療技術の考え方を身につける。(E6－1)		

教科書	「運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版」 南江堂 「実践！理学療法評価学」 医歯薬出版		
参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。		
履修上の注意点	特になし		

実施回	授業内容	担当教員
1	総論・運動器構造の復習（運動器に関わる構造と仕組みを習得）	本間
2	脊椎性障害（脊椎の代表疾患の特徴を習得）	本間
3	変形性関節症（総論・脊椎）：（変形性関節症の概要を習得）	本間
4	変形性関節症（膝）：（膝 OA の姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
5	変形性関節症（股関節）：（股 OA における姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
6	関節軟部組織性障害（靱帯損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
7	関節軟部組織性障害（半月板損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
8	関節構造に由来する障害（関節構成体の異常特性と運動療法について習得）	鈴木
9	骨性障害（上肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
10	骨性障害（下肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
11	骨性障害（その他骨の代表疾患について。異常特性と運動療法について習得）	鈴木
12	筋・軟部組織性障害（筋の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
13	筋・軟部組織性障害（軟部組織の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
14	関節リウマチ（RA の異常と重症度におけるリスク管理について習得）	本間
15	まとめ	本間

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 理学療法治療学

科 目 名		単位数		1	学科	理学昼	期	後期
		時間数		30	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経歴	平成 24 年度より医療施設に勤務し、脳血管障害を中心に理学療法を幅広く経験した。上記経験に基づいて中枢神経障害の基礎的な疾患論、応用的な介入方法や思考過程について指導する。					
担 当 教 員	伊藤 昇平							
概 要	脳血管疾患や脳外傷等に伴う神経の損傷に起因する疾患についての病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価および基本的理学療法を、症例を通じ理解する。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	①各種疾患を考慮し、評価・治療の意義を理解する ②運動負荷およびリスク管理の重要性を理解する ③疾患の病期と動作障害に関連づけて理解する <対応 CC コード> E 3-1) ①：理学療法評価の目的と評価方法について説明できる E 3-1) ②：理学療法評価実施前のスクリーニング検査について説明できる E 3-1) ③：理学療法評価を実施する時期について説明できる E 3-1) ④：理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる E 3-1) ⑤：理学療法実施にかかわる情報の整理の仕方が説明できる E 3-1) ⑥：理学療法実施にかかわる情報の整理ができる E 3-1) ⑦：理学療法目標設定の仕方が説明できる E 3-1) ⑧：理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる E 5-3) ②：義肢装具の適応について説明できる E 6-2) ①：中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる E 6-2) ②：中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる							
教 科 書	脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版 文光堂							
参 考 書 ・ 教 材	適宜資料を配布する							
履修上の注意点								

実施回	授業内容	担当教員
1	中枢神経障害と理学療法における運動	伊藤
2	脳血管障害リハビリテーションにおけるリスク	伊藤
3	脳血管障害の標準治療、回復メカニズム	伊藤
4	片麻痺患者の動作分析	伊藤
5	半側空間無視、Pusher症候群に対する理学療法	伊藤
6	装具療法、嚥下障害に対する理学療法	伊藤
7	基本動作再獲得に向けたポイント（実践）①	伊藤
8	基本動作再獲得に向けたポイント（実践）②	伊藤
9	片麻痺患者の歩行分析（実践）	伊藤
10	A D L獲得に向けた理学療法、在宅生活での理学療法（実践）	伊藤
11	筋緊張異常・感覚障害に対する理学療法（実践）	伊藤
12	廃用症候群予防に向けた取り組みの実際	伊藤
13	ハンドリングの実際（実践）	伊藤
14	症例検討（実践）①	伊藤
15	まとめ	伊藤

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門

令和7年度

科 目 名	発達障害系理学療法学	単位数	1	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2年	区分	必修

科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして疾患論から治療学まで授業を行う。
担当教員	西田 万里		
概要	正常発達を把握した後、発達時期において中枢神経系あるいは末梢神経系に障害を受けた児・者の理学療法の評価・治療方法について学ぶ。主に脳性麻痺について症状、合併症から治療方法の考え方を身に付ける。また二分脊椎について、運動機能評価のしかたや治療法について学ぶ。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	胎生期、乳幼児期における発達過程について理解する。代表的な小児疾患（脳性麻痺）については、疾患概要を理解し、その理学療法経過や治療について説明・実施できるようになる。その他の疾患に関しては疾患概要や理学療法経過を理解し説明できるようになる。C-3、E-6)		

教科書	小児理学療法学テキスト 南江堂 改訂第3版
参考書・教材	正常発達 第2版 脳性まひの治療アイディア
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	胎生・生後日数の数え方、発達の法則、胎生期の発達について説明できる	西田
2	原始反射・姿勢反応について、刺激と反応、反射の中枢について述べられる	西田
3	正常発達（0～3ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる	西田
4	正常発達（4～6ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる	西田
5	正常発達（7～12ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる	西田
6	上肢機能・口腔機能の発達段階を整理し、粗大運動発達との関連を述べられる	西田
7	平常試験	西田
8	脳性麻痺の総論、概要について説明できる	西田
9	痙直型両麻痺の特徴と治療方針について関連づけられる	西田
10	痙直型四肢麻痺、痙直型片麻痺の特徴と治療方針について関連づけられる	西田
11	アテトーゼ型、失調型の特徴と治療方針について関連づけられる	西田
12	痙直型脳性麻痺の評価と治療を具体的に挙げることができる	西田
13	アテトーゼ型脳性麻痺の評価と治療を具体的に挙げることができる	西田
14	二分脊椎について疾患特徴と分類、治療方針について説明できる	西田
15	全体のまとめとして重要ポイントを列挙できる	西田

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席
	平常試験	10	評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分：理学療法治療学

科 目 名	神経筋障害系理学療法学	単位数	1	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内智恵	実務 経験	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内智恵		

概要	脳血管疾患や脳外傷を除く、神経および筋の変性に起因する疾患についての病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価および基本的理学療法を理解する。
一般目標（GI0）	代表的な疾患については、その理学療法経過について理解する。なお、それぞれの疾患別に、実習を含めて取り組むことを想定する①「実施できる」とするものと、講義に留めても構わない②「説明できる」とに区分して整理し列挙している。E-6)

教科書	「神経障害系理学療法」 医歯薬出版
参考書・教材	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学」医学書院 他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	総論：概要、種類、神経原性疾患と筋原性疾患の特徴、予後と治療について説明できる	山内
2	パーキンソン病①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
3	パーキンソン病の理学療法②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
4	小脳疾患（脊髄小脳変性症）①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
5	小脳疾患の理学療法②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
6	症例検討	山内
7	中間まとめ	山内
8	ミオパチ（進行性筋ジストロフィー）①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
9	ミオパチ（その他、筋疾患）②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
10	筋萎縮性側索硬化症：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
11	ニューロパチ（ギランバレー症候群）：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
12	脱髄疾患（多発性硬化症）：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
13	脊髄損傷：疾患概要、特徴について説明できる	山内
14	脊髄損傷・症例検討：予後と治療について説明できる	山内
15	まとめ	山内

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	平常評価		評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 作業療法治療学

科 目 名	老年期障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業療法	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで老年期作業療法の基礎知識、流れなどについて授業を行う。
担 当 教 員	高橋 真紀 田中 孝博		
概 要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教科書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
参考書・教材	担当教員が用意するプリント
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション 高齢者用体操プログラムに参加し、実施することができる	高橋
2	高齢者の時代背景を知ろう① グループにて担当の時代を調べ、現在と比較できる	高橋
3	高齢者の時代背景を知ろう② グループにて担当の時代を調べ、まとめ、表にすることができる	高橋
4	高齢者の時代背景を知ろう③ グループにて担当の時代を分担して発表することができる	高橋
5	症例検討① 症例を通して、高齢者の作業療法の流れを説明できる	高橋
6	症例検討② 症例を通して、高齢者の作業療法の流れを説明できる	高橋
7	高齢者とのコミュニケーションの特徴について説明できる	田中
8	認知症の評価について概要を説明できる	田中
9	認知症の評価について実施できる	田中
10	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う①	田中
11	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う②	田中
12	高齢者の評価・リハビリテーションについて事例を通して演習を行う③	田中
13	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、高齢者へ説明することができる	高橋
14	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、高齢者に配慮することができる	高橋
15	Activity 体験実習 実際に Activity を実施し、治療に関連づけることができる	高橋

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	70	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	30	

科目区分： 作業療法治療学

令和7年度

科 目 名	日常生活活動学	単位数	2	学科	作業	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	高齢者の入院施設、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション事業所において、作業療法士として日常生活活動の評価やリハビリテーションを実践した経験がある。
担 当 教 員	田中 孝博、高橋 真紀 木谷 優矢		
概 要	日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）に対する作業療法の概念、評価、作業別支援について理解し、説明できることを目標に座学・演習を組み合わせた授業を行う。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	・日常生活活動・IADL の概念について説明できる（F2-8①） ・日常生活活動・IADL の評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADL における作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）		

教科書	「PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版」羊土社
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	日常生活活動の概念について説明できる	田中
2	日常生活活動の評価について説明できる	田中
3	起居について動作の意味や目的を説明できる	木谷
4	移乗について動作の意味や目的を説明できる	木谷
5	移動について動作の意味や目的を説明できる	木谷
6	外出（交通機関の利用、自動車運転など）について動作の意味や目的を説明できる	田中
7	食事について動作の意味や目的を説明できる	田中
8	整容・更衣について動作の意味や目的を説明できる	田中
9	排泄・入浴について動作の意味や目的を説明できる	田中
10	基礎的な移乗とその介助法について実践できる	木谷
11	基礎的な移乗とその介助法について実践できる	木谷
12	炊事について活動の意味や目的を説明できる	高橋
13	掃除について活動の意味や目的を説明できる	高橋
14	買い物・経済管理、睡眠・栄養・運動について活動の意味や目的を説明できる	高橋
15	趣味活動・社会参加について活動の意味や目的を説明できる	高橋

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート	10	

科目区分： 作業療法評価学

令和7年度

科 目 名	基礎作業療法評価学	単位数	2	学科	作業	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	田中 孝博	実務 経歴	高齢者の入院施設、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション事業所において、作業療法の評価について実践していた経験がある。
担 当 教 員	田中 孝博 相馬 祐紀		
概 要	本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の情報収集、各種検査測定等の評価方法について学習する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)		

教科書	「作業療法評価学 第4版」 医学書院 講師作成資料（配布プリント含む）		
参考書・教材	適宜資料配布		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	担当教員
1	評価学基礎:評価の意義・目的を説明できる	田中
2	評価学基礎:対象と過程、手順を説明できる	田中
3	評価学基礎:評価における治療計画、記録・報告、効果判定について説明できる	相馬
4	領域共通の評価法:面接・観察、形態計測、意識・バイタルサインを実施できる	相馬
5	領域共通の評価法:ROM-Tの一部を実施できる	田中
6	領域共通の評価法:ROM-Tの一部を実施できる	田中
7	領域共通の評価法:ROM-Tの一部を実施できる	田中
8	領域共通の評価法:ROM-Tの一部を実施できる	田中
9	領域共通の評価法:ROM-Tを実施できる	田中
10	領域共通の評価法:MMTの一部を実施できる	相馬
11	領域共通の評価法:MMTの一部を実施できる	相馬
12	領域共通の評価法:MMTの一部を実施できる	相馬
13	領域共通の評価法:MMTの一部を実施できる	相馬
14	領域共通の評価法:MMTを実施できる	相馬
15	知覚検査、まとめと試験範囲の説明	田中

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門科目

令和7年度

科 目 名	老年期作業療法治療学	単位数	2	学科	作業療法	期	前期
		時間数	30	学年	2年	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	病院・施設・事業所などで作業療法臨床に従事した経験を十分に持つ。この経験を活かして病院から地域まで老年期作業療法の基礎知識、流れなどについて授業を行う。
担当教員	高橋 真紀 田中 孝博		
概要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教科書	標準作業療法学（専門分野）高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	老年期にある対象者の作業療法の理念と役割について説明できる	高橋
2	高齢者・高齢社会について①説明できる	高橋
3	高齢者・高齢社会について②高齢期の課題について説明できる	高橋
4	高齢者・高齢社会について③社会制度や高齢期の作業療法について説明できる	高橋
5	老年期と作業療法について①高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
6	老年期と作業療法について②高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
7	老年期と作業療法について③高齢期の一般的特徴について説明できる	高橋
8	高齢期に多い疾患①について説明できる	高橋
9	高齢期に多い疾患②について説明できる	高橋
10	高齢者の評価について説明できる	田中
11	認知症について説明できる	田中
12	認知症の分類、BPSDについて説明できる	田中
13	認知症を抱えた対象者について説明できる	田中
14	認知症を抱えた対象者とのコミュニケーションについて実施する	田中
15	認知症を抱えた対象者の支援の重要性について説明できる	田中

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	レポート課題	20	

科目区分： 地域作業療法学

科 目 名	地域作業療法学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		
概要	地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎について学習する。職業リハビリテーションや領域ごとに地域作業療法について概説し、作業療法士の役割や必要な技能について理解を深める。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	地域における基本的な作業療法について理解する（F-3-1） 就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。（F-3-2） 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。（F-3-3）		

教科書	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学第4版
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	地域作業療法①（地域作業療法の概念について説明できる）	谷口
2	地域作業療法②（地域作業療法における医学モデル、生活モデルの視点について説明できる）	谷口
3	地域作業療法③（地域作業療法における社会資源とその活用について説明できる）	谷口
4	住環境整備・福祉用具①（住環境整備の視点と基礎技術について説明できる）	谷口
5	住環境整備・福祉用具②（住環境整備のアセスメントについて説明できる）	谷口
6	住環境整備・福祉用具③（移動に関する住環境整備について説明できる）	谷口
7	住環境整備・福祉用具④（その他の住環境整備について説明できる）	谷口
8	就労支援①（就労支援における作業療法の役割について説明できる）	谷口
9	就労支援②（就労支援に関するアセスメントについて説明できる）	谷口
10	就労支援③（就労支援に関するアセスメントを実施できる）	谷口
11	領域別の地域作業療法①司法領域	谷口
12	領域別の地域作業療法②発達障害領域（学校等）	谷口
13	領域別の地域作業療法③災害リハビリテーション	谷口
14	領域別の地域作業療法④精神障害領域	谷口
15	領域別の地域作業療法⑤精神障害領域	谷口

成 績 評 価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	20%	